アジアの伝統楽器によるコンサート

東方音楽絵巻

～古から今に煌めくアジアの楽器たち～

博物館で東洋美術を巡り、
アジアの伝統楽器に
時代を旅する。
時を超えた民族の旋律に
現代が息づく、
とっておきの音楽絵巻。
東京国立博物館で
アジアの伝統音楽を
楽しむコンサートです。

古箏：ウー・ファン

ウード：常味裕司

馬頭琴：イラナ

シタール：サワン・ジョシ

キーボード：野崎洋一

10月29日（日）　開場13：30　開演14：00

東京国立博物館　平成館大講堂　4,000円（全席自由）

＊未就学児のご入場はご遠慮ください
＊このチケットでトーハクの総合文化展もご覧いただけます

東京都台東区上野公園13-9　JR上野駅・鶯谷駅　徒歩10分

東京国立博物館（愛称　トーハク）は、日本で最も長い歴史をもつ博物館です。日本を中心にした東洋のさまざまな国や文化の美術作品、歴史資料、考古遺物などを集めて大切に保管・展示しています。ぜひこの機会にトーハクでアジアを体感してみませんか。

チケットのお求め

◎窓口販売　東京国立博物館正門　観覧券売場
◎オンライン販売　e+（イープラス）　http://eplus.jp

お問合せ

東京国立博物館総務課イベント担当
TEL03-3822-1111（代表）　9：30-17：00（土日・祝祭日を除く）

主催　NPO法人世界遺産コンサート　http://www.whconjp/
協力　東京国立博物館
制作協力　㈲オフィスジブ　㈱TIC　S・W　K-sound　㈱コナン

東方音楽絵巻　演奏者と楽器のご紹介

■常味　裕司

日本のみならず、東アジア地域におけるウード演奏家のパイオニア、第一人者と称される。スーダンのウード演奏家のハムザ・エル＝ディン（2006年没）、アラブ世界を代表するチュニジアのウード演奏家のアリ・スリティ（チュニス国立音楽院ウード科教授・2007年没）の巨匠たちから学ぶ。国内では日本人ウード奏者の輩出にも寄与している。また、宇崎竜童と活動を共にするなど、各ジャンルへ影響を与え続けている。全国各地での演奏活動のほか、都内の各国大使館での演奏も数多い。NHKの新・シルクロードではアラブ音楽の監修を行なっている。

【ウード】アラブ

アラブ古典音楽で用いられる代表的な木製の撥弦楽器。その歴史は古く、ササン朝ペルシャの楽器バルバトがその前身とされる。またウードはヨーロッパリュートの直接の祖先でもある。横板がなく背面部が大きく膨らんだ胴、フレットのない指板を持つ短い棹、後ろに折れ曲がった糸倉、ヴァイオリン属の様な直付けの糸巻、ギターのような緒止めを兼ねた駒(ブリッジ)、透かし彫りのある三つ(またはひとつ)の響孔を持つ表板といった形状を持つ。

■サワン・ジョシ

1977年ネパール出身。2002年、Ho-Hi-Yan 国際音楽祭（台湾）、アジア・アコースティックフェスティバル（台湾）、国際民謡歌祭（台湾）、2004年東京藝術大学音楽研究科に入学し、南アジア音楽文化の専門的な研究を始める。2010年東京芸術大学大学院音楽学博士課程後期終了し、博士号取得。2013年より東京芸術大学音楽学部で非常勤講師としてシタールの実技授業を担当。2014年、CD「HOT SPICE」をリリース。現在、音楽研究活動、シタール奏法の指導をする傍ら、古典音楽を基本に様々な音楽との融合を試みた演奏活動を通じ、シタール音楽の普及に取り組んでいる。

【シタール】インド・ネパール

シタールは北インド発祥の弦楽器である。三弦を意味するペルシャ語「セタール」に由来するが、実際には直接演奏するための弦が７弦（うち旋律用３弦、ドローン用４弦）と十数本の共鳴弦を持つ。弦はすべて金属製。床に座り楽器を斜めに構え、左手で弦をおさえながら、針金でできたピックを右手人差し指につけて弦を弾く。下駒に三味線のサワリにあたる「ジュワーリー」があり、弦が接する面の微妙なカーブと共鳴弦とにより、独特の音色が生み出される。

■イラナ

内モンゴルの大草原に生まれ、 幼少時代を遊牧民とともに暮らす。 6歳で馬頭琴を始め、巨匠エルデンダライに師事。 さらに馬頭琴を学ぶため 単身首府フフホトに移り、 名門の内モンゴル芸術大学中等部入学。 馬頭琴の巨匠の一人ダルマに師事。現在はプロの馬頭琴演奏家。2005年世界無形文化財に認定されたモンゴル族の伝統歌唱である長唄・オルティンドーの継承者でもある。馬頭琴を演奏しながらオルティンドーを歌うという前人未踏な歌唱スタイルを追求し、世界の舞台で New World Music アーティストとして活躍する。

【馬頭琴(ばとうきん）】モンゴル

馬頭琴は先端が馬形の棹と、四角い共鳴箱、2本の弦で構成される。本体は木材、共鳴箱や棹は、内モンゴルではエゾマツなどの松材、モンゴル国では白樺が多い。弦を支える駒が上下にあり、音程の微調整ができる。共鳴箱の表はヤギなどの皮革から木製に改良され、F字孔や魂柱などの要素を加えた。弦と弓は馬の尾毛かナイロンを束ねているが、馬の尾毛の場合、低音弦は100-130本、高音弦は80-100本、弓は150-180本になる。
「スーホーの白い馬」に出てくる楽器で有名である.

■伍芳（ウー・ファン）

上海生まれ。9歳より古箏を始め、中国で最も難関といわれる上海音楽学校に入学、1990年首席で卒業し来日。1996年9月に東芝ＥＭＩよりデビュー。日本での中国楽器ブームの先駆けとなる。KENNY G、南こうせつ、東儀秀樹など数々のアーティストと共演。朗読、狂言、人形浄瑠璃文楽、和太鼓との共演、皇太子様、雅子様の前での御前演奏等々、意欲的な演奏活動を行う。古箏教室を開き古箏の普及にも努めている。2015年1月14日震災復興への祈りをこめたオリジナル曲「あのひとともに」を発表。中国の古典、現代曲、幅広い演奏活動と作曲活動にも力を注いでいる。

【古箏(こそう）】中国

箏は中国の伝統的な民族楽器の弾撥弦楽器。日本の琴のルーツでもある。春秋戦国時代の秦で流行した。初期は5弦との説もあるが、漢代以降12弦、13弦のものが現れ、明、清時代から15弦、16弦となった。箏は桐の木で作った長方形の音箱にスチールの上にナイロンと絹糸を巻いた弦を張り、柱で音階を調節しながら、右指先に三つまたは四つ玳瑁で作られた義爪をテープで固定して弾く。古箏は華やかな音で、美しい叙情的な曲を表現できるほか、気勢盛んな曲もよく表現する事ができる。
2009年ユネスコの無形文化遺産に登録された.

■野崎　洋一

【キーボード・アレンジ　】

1970年、東京都生まれ。幼少の頃からピアノを始め、1989年、栗原良次のサポートメンバーとしてプロデビュー。以後、松田聖子、上妻宏光、沢田研二、石井竜也、宗次郎、近藤真彦、岡村孝子、Ｄ－５１、内田有紀、森口博子、石川よしひろ等、第一線で活躍するアーティストのステージを数多くサポートしている。
レコーディングやセッションライブにも参加、厚い信頼を集め、 最近では新人アーティストのプロデュースも積極的に行うなど、活動の場を広げている。
今回の東方音楽絵巻では古典音楽をアレンジし、伝統楽器の音と音をつなぐ重要な役割を果たしている。

NPO法人 世界遺産コンサート®
WORLD HERITAGE CONCERT
http://www.whcon.jp/

人と文化と音楽と
有形・無形の遺産を次の世代へ繋いでいく

世界遺産コンサートは、人類の宝物である世界遺産をステージに、音楽を通して世界の人たちと新たな絆を創り出す活動をしています。
また、次世代の子どもたちを「未来への遺産」とし、その健やかなる育成を支援する活動にも積極的に参加しています。